

現在検討段階で、国家プロジェクトの認可が下り次第進める

全方位同時改革の一環で、働き方改革や人事制度改革も、同時に達成をたく、SDGS: 持続可能な開発目標にちなみ、楽しく働き、そして誰もが成長可能な職場を目指しています。

年齢制限がなく、シングルマザー＆ファザーでも、子供を連れてきて、手空きの人と一緒に遊ぶことができるような余裕のある、システムをつくりあげたいと考えています。

一方で、仕事をドンドン行って、生活を充実させたい人は、週50時間以上の残業をし、その代わりに欧米並み以上の長期休暇を取得することも可能です。

種々のスキルを身に着け、さらに会社に貢献したい人は、職場で1日二時間以内を目途に、スキルアップ時間を設定してもよいとします。

従いまして、社員同士がよく話し合っ、職場のメンバーに適合した(最大公約数)ルール化をし、中身が固まればよいと考えています。

カーリング女子日本代表のような、皆が一定の緊張感を持ちながらも、あるいは明確な目標をもちながらも、リラックスした状態で楽しく仕事をする状態を作りたいと考えております。(よく口うるさい課長が出張でいないと、皆がリラックスして良い仕事ができる、アノ感覚です。従いまして、私も皆さんから来てくれと言われる時間以外では出社しません。)

Globalデジタル改革のシステム導入前は、自己申請、導入後はAIが勤務管理や人事評価を行う

A職＝英語がネイティブに近い人たちで(週4日勤務: 基本給50万)日米台の企業群の英語によるバリウスリンク会議の招集案内、コーディネイトを行う。必要な海外出張を自分で設定する。

B職＝トEIC400点以上の英語能力があればよい。(週4日勤務: 40万) A職のアシスト及び、経費処理や国内参加企業の月ごとの経費計上のチェックを行う。必要な国内出張を自分で設定する。国内の市町村への情報出しや情報収集を行う。

A職もB職も特に担当はなく、私がこの仕事のここまでやりますで、どちらかという、仕事を奪い合う感覚ですが、特に当面処理する案件がなければ、システムを考えたり、種々のアイデアボックスに書き込んでもよいし、何かの勉強をしてもよく、しかもそれで残業設定をしてもよい。

ガーデンフィールドのお仕事

ガーデンフィールドが直接開発するわけではなく、日米台に英語の堪能なスタッフ(=A職)を置き、globalバリウスリンク会議を招集し(といっても、主たる開発組織(企業)が、日米台の事務所に来るだけで、残りの企業群や各省庁・自治体のスタッフはリモートになります。)、開発を進めます。バリウスリンク会議では、開発の概要や技術の重要ポイントの説明のみで、質疑応答は、少なめにして、報告の後に、個別会議や個別メールのやり取りで、内容を確認し、修正を加えていくシステムです。ガーデンフィールドは、進捗状況を常に確認し、フォローのための個別会議や、次回の全体会議の設定を行います。また、国際特許の取得や知財管理を行っています。

ガーデンフィールドでは、その国の参加企業からの、経費情報:スタッフや設備使用、部品の購入・組立調整費等の月ごとの経費に間違いがないか(過剰申請はないか、必要な問い合わせを行う)の確認や会議の招集連絡、各機器の進捗状況の把握とUP(進捗表は日米台共通)、各自治体様での設置計画や輸出数量等の管理を行い、有力バイヤーの案内等を行います。(輸出入等の商売の実務内容は複数の商社やジェトロ等に委託するので、直接は関わらないが、トラブル発生時には煩雑な情報交換が伴う。)

よって、基本的に開発費は日米台の国持ちではなく、参加企業の自社持ちで、あとで売り上げの中から、貢献度に応じて色をつけて(かかった経費の1.2~20倍を想定)回収する手法で、参加中小企業への無利子融資(要返済)がありますと助かります。(国家予算はガーデンフィールド株式会社にかかる経費のみです。)

<バリウスリンク会議の意義と目的>

最先端技術を持ち寄り、またユーザーの意見を聞きながら、さらに同時改革の他の製品とのバランスを取りながら(他のシステムで補完が可能であれば、無駄な機能は付加しないスタンス)標準形の開発を進めるシステムで、日米台の各市町村の工場でも開発部門をもち、各仕向け地の仕様にアレンジして、開発・製造・販売を行うシステムです。

特許技術のリスト:

- 1 globalデジタル改革:顔動画と音声による本人認証システム(特許第6912070号)
- 2 globalデジタル改革:自撮り顔動画が出勤するAI電子勤務システム(特許第690302号)
- 3 ツリー型太陽光発電システム:天軸型太陽光発電システム(特許第6656522号)
- 4 空中鉄道:ワイヤードセーフティフライトシステム(特許第6436468号)
- 5 空中鉄道:ドローン給電システム(特許第6430057号)
- 6 自動介護システム:生活しやすいEV(特許第6792891号)
- 7 自動介護システム:自動運転トラム(特許第7051164号)
- 8 自動介護システム:寝返り不要な極楽ベッド(特許6882812号)
- 9 自動介護システム:EV用蓄電池の自動システム(特許6741323号)
- 10 予測外の強い地震に耐えるビル:震災に強いビル(特許6684510号)
- 11 日米台の各市町村への配備の工場:全自動工場システム(特許第7031786号)
- 12 専守防衛システム:低空&水中客室ドローン(特許第7012403号)
- 13 専守防衛システム:自動スナイパードローン(審査請求中)
- 14 浮遊型木造人工島(特許取得見込み:特許庁との意見交換実施)
- 15 潮流発電(ベルヌーイの定理)(審査請求中)

2022年:各種機器の開発検討開始、globalデジタル改革の日米台での試験的運用

2023年:木造人工島とツリー型と潮流発電システムの日米台の複数の洋上での試験的導入、globalデジタル改革の日米台での本格的運用

2024年:日米台の全国の希望する市町村へ、全自動工場の試験的配備、木造人工島とツリー型と風力発電システムの日米台の複数の洋上への本格的な配備(スマート都市の構築)開始。

2025年:大阪万博に合わせ、「関空-大阪&神戸」の空中鉄道網設置、日米台の全国の希望する市町村へ、全自動工場の本格的な配備

2026年:各種機器のサンプル的な輸出(姉妹都市へのサービス工場の設置)

2027年:各種機器の本格的な輸出開始、人工光合成システムの試験的な導入

2028年:人工光合成システムの本格的な稼働、自動介護システムの本格的な運用

注:一般的に9:1の法則があり、とことん追い込むのはかえってマイナスになります。

例えば、多少多めの税金を支払えば、一部の趣味のガソリン車も容認(夢や遊び心をつないでいく)し、また電力調整用のガス火力発電機等を一部残してもよいというスタンスで、人工光合成やCO2削減工場には世界レベルで研究を加速させ、大規模に稼働させる方向と考えており、従いまして、特定のエリアごと、一部のシステムごとでの「温室効果ガスの発生を0」にする必要はない(ほどほどにするとよい)と考えております。

(参考内訳計算)

日本:平均賃金100万(月)、
諸経費月:1000万(日本)、
1500万(米国)、500万(台湾)
2022年度:2.6億(6月から7か月)
2023年度:2.4億(米国及び
台湾での諸経費は各国負担)
2024年度:2.4億
2025年度:2.4億
2026年度:2.4億
(2027年度以降は特許収入で
負担予定)

